

Interview 専門家に聞く HPVワクチン 3つの疑問

本文に入る前に知っておきたい 子宮頸がんとHPVワクチン



子宮頸がんってどんな病気？

- 女性に特有のがんで、その多くはヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が原因
- 毎年約1万人がかかり約3,000人が亡くなる
- 30代までにがんの治療で妊娠できなくなる方も年間約1,000人



HPVワクチンってどんなワクチン？

- HPVによる子宮頸がんの最大9割を予防するワクチン
- 無料接種の対象は通常小6～高1女子だが、令和8年3月末まで対象期限が延長の人も*

*平成9～20年度生まれで令和4～6年度に1回以上HPVワクチンを接種した女性

市民の皆さんから相談の多い3つの疑問について、専門家が解決！普段なかなか知る機会が無い、ワクチンに関する貴重なお話をうかがいました。接種の検討にぜひご活用ください。

大原綜合病院
大原ワクチンセンター長
すずたに たつお
錫谷 達夫 さん



医師。県立医科大学名誉教授、
市予防接種健康被害調査委員会委員長。

Q1.副反応がひどいと聞きますが、実際はどうなんでしょう？

—HPVワクチンの定期接種が始まっていますに、接種後に様々な症状が出たとして、厚生労働省は積極的な接種勧奨を差し控える決定をしました。その後、安全性が確認されたとして積極的勧奨を再開しましたが、当時の印象で不安をお持ちの方も多いと思います。実際のところどうなんでしょうか。

かつて、1カ月以上続く重い副反応は10万人に7～8人程度の割合で起きていました。ところが、令和4年4月にキャッチアップ接種（HPVワクチンの積極的勧奨が控えられていたことで接種機会を逃した方のために、通常の対象年齢を超えて行う接種）が開始されて以降は、10万人に1～2人と以前の5分の1以下になり、しかも、その4人に3人は治療により回復しています。

なぜ副反応が5分の1以下に減少したのかは不明ですが、

- ワクチンと無関係に副反応と同じような症状が思春期女子に起こることが分かり、副反応と思われていた方の一部には、ワクチンと関

係のない方が紛れ込んでいたと考えられるようになった

- 2価→4価→9価と、ワクチンの改良に伴って、（ワクチンの成分にあまり変化はないものの）わずかではあるが副反応の率が低下している
- 新型コロナワクチン以降、それまで日本であまり行われていなかった筋肉注射に、医師・看護師が慣れることで、ワクチン接種後肩関節障害などが減少した

などが、複雑に絡んで減少していると考えられます。

—ワクチンの副反応がこわいという声も聞かれます。今健康な人が、副反応のリスクがあってもワクチンを受ける意味は何ですか。

例えば糖尿病の方は、動脈硬化が進行し、将来病状が悪くならないように薬を飲みますよね。これは予防です。ワクチンも将来の病気への備えという意味では同じことです。なってしまっては大変。なので予防が大事なんですね。

Q2. 注射は痛いし、まだいいかな…。べつに接種しなくてもいい？

—市には、痛いのが嫌だからと接種を拒否するお子さんについての相談も寄せられています。痛くない注射はありませんが、接種の意義について教えてください。

子宮頸がんになると、注射とは比べものにならない痛みや苦しみに見舞われます。子宮頸がんの手術を受けた方の4分の3は命が守られますが、子どもを産めないという大きな代償を払うことになります。それだけでなく、下半身のひどいむくみなどの後遺症に悩んでいる方もたくさんいらっしゃいます。どうしても亡くなる方だけに意識が向きがちですが、命が助かった場合でも、その後の生活に及ぶ影響は非常に大きいです。

また、痛みには個人差があります。心配な方は、接種の前に医療機関に相談してみてください。

—子宮頸がんの原因としてHPV（ヒトパピローマウイルス）への感染があり、その予防としてのワクチンですが、ウイルスといってもみんなが感染するわけではない気がしてしまいます。

実際には、みんなが感染するものだと思ったほうがよいでしょう。というのも、性行為を経験した人のおよそ3分の2はHPVに感染するのです。HPVの感染は、決して特殊なものではなく、人類全体がこの頻度で感染します。その結果、感染した女性の75人に1人は子宮頸がんになるのです。ワクチンのほかに子宮頸がんの予防法

はなく、世界148カ国で予防接種が行われています。

—性行為で感染するなら、急いで接種する必要が無い人もいるでしょうか。

性行為経験前にワクチンを受ければ子宮頸がんを9割予防できますが、経験後だと5割に低下します。このワクチンの効果は長く続くので、なるべく早めに接種するのが得策で、接種を遅らせることに意味はありません。また、特に15歳未満で効果が良好なので、15歳未満で接種を開始した場合は2回で十分な効果を得られることが証明されています。ところが、15歳になってから接種を開始すると、3回の接種が必要となるのです。ワクチンのメリットを生かすためにも、痛い思いを少なくするためにも、15歳未満で接種を開始して、2回で完了するのが賢明です。ぜひ、春・夏・冬の長期の休みを利用して、中学1・2年生のうちに接種を終えましょう。



Q3. このワクチンを接種すれば、子宮頸がんは予防できる？

—子宮頸がんの対策としては、ワクチンを受けるだけでよいものでしょうか。

ワクチンにより、がんになる人を10分の1以下にはできますが、100%予防はできません。ですから、ワクチンを接種しても、20歳になったら子宮頸がんの検診は必ず受けてください。幸い、子宮頸がんはがんになる前の状態が分かっているので、他の

がん検診より少ない頻度の検診で済みます。ワクチンと2年に一度の検診、そしてがんが見つかった場合の適切な治療により、子宮頸がんで亡くなる方のほとんどを防げます。そこでWHO（世界保健機関）では、世界から子宮頸がんを排除するため、接種率9割以上、がん検診受診率7割以上、9割以上の方の適切な治療を目指しています。

「悲しい例を一つでも減らしたい」 皆さんへのメッセージ

子宮頸がんは発症年齢が若く、30代や40代の方に多いがんです。子どもが欲しいと思ったときや、妊娠していざ出産というときに見つかったりもします。子どもを残してお母さんが亡くなってしまうケースもあり“マザーキラー”と言われる

所以です。私はワクチンセンターで働いていますが、そういうケースに直接触れる産婦人科の医師からは「接種をがんばって推進してほしい」と言われます。ワクチンで、少しでも悲しい例を減らしたいと思っています。

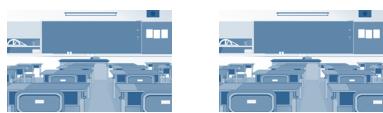
Data どのくらいかかる？どのくらい接種してる？

日本では毎年、約1万人の女性が子宮頸がんになり、毎年、約3,000人の女性が亡くなっています。患者は20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなる）人も、1年間に約1,000人います。

一生のうち子宮頸がんになる人

1万人あたり125人

2クラスに1人くらい

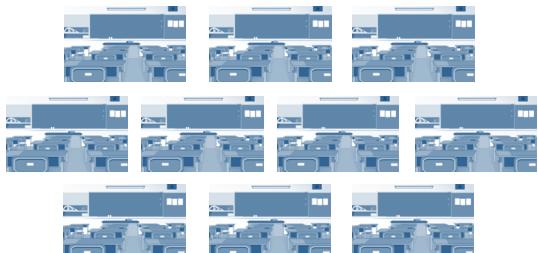


1クラス約35人の女子クラスとして換算

子宮頸がんで亡くなる人

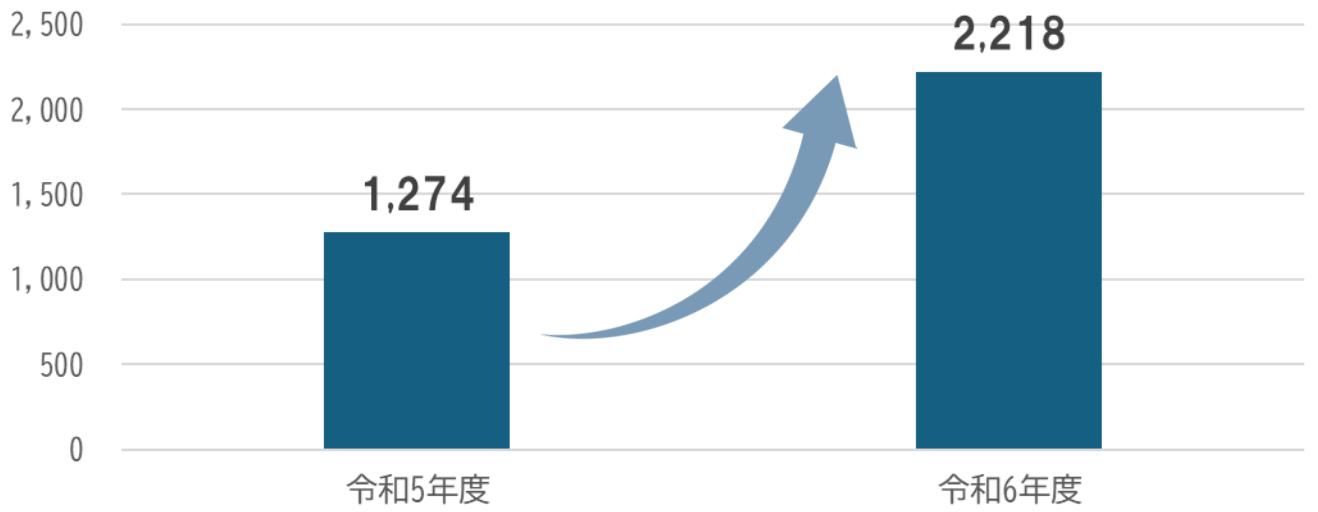
1万人あたり34人

10クラスに1人くらい



出典 国立がん研究センター がん情報サービス 2020年全国推計値に基づく累積罹患リスク、2022年累積死亡リスク、2022年人口動態統計がん死亡データより

福島市のHPVワクチン接種回数 (通常の定期接種のみ)



錫谷先生の解説やデータで、HPVワクチンについての疑問は、少しでも解消されたでしょうか。ワクチンの効果や意義は記事の通りですが、一方で副反応のリスクも残念ながらゼロではありません。この記事が、接種を受ける利益とリスクを理解した上で、納得できる判断をする一助になれば幸いです。

令和8年1月発行

編集・発行 福島市保健所 感染症・疾病対策課
福島市森合町10-1 保健福祉センター
TEL 024-597-6203